

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

『奈良を知る 地域を知る』－世界遺産と環境－ ～クロスオーバー若草 点から線へ、線から面へ～

今年度の取組紹介

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会定例会、地域合同文化講演会、などの事業が中止になり実施することができませんでした。その中で、実施できたものを1つ紹介します。

・コーディネーター会議

役員会を開催し、コロナ禍における協議会の運営について検討をしました。感染予防を最優先し大人数の集まりを中止しました。具体的には、地域合同文化講演会と定例会を中止し、代表者によるコーディネーター会議を2回実施しました。役員改選による新役員の報告や今年度のまとめ、来年度の計画について情報交換を行いました。今年度のまとめについては、地域コーディネーターのみなさんや地域の関係機関のみなさんには書面にて情報共有を行いました。



今年度のまとめ

今年度はコロナ禍における感染拡大防止を最優先し無理のない活動を行いました。例年行われている地域合同文化講演会は大人数ということで中止しました。できる事業として各運営委員会の繋がりを継続するために代表者による地域コーディネーター会議を2回実施しました。情報共有もできてとても有意義なものでした。

来年度に向けて

- ・コロナ禍においてできる事業を工夫しながらすすめていきます。
- ・今年度同様、地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターの繋がりを継続的に深めていきます。
- ・地域の歴史を学んだり、地域のことをよく知った人材の発掘等をすすめるキャリア教育の支援に繋がっていきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

・学びをはぐくむ

今年度の取組紹介

○学習支援

- ・「中3学習会」「図書館学習」

3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域ボランティアに協力いただき中3学習会を行っています。

定期テスト前の期間を中心に全学年希望者による図書館での学習会を行っています。



○キャリア教育支援

- ・「ゲストティーチャー」から学ぶ

キャリア教育の一環として様々な職業の講師の先生を招き職業についての講義を受けたり、実際に職業の実習体験を行いました。フラワー装飾、印章彫刻、ネイルアーティスト造形クリエイター、保育士、広告美術など生徒たちにとってとても興味深く、将来の進路選択に向けてとても有意義な体験でした。



○環境整備

- ・校内環境整備

地域の方々がボランティアとして、季節の花植えをハンギングに植えていただき学習環境をより美しく整備していただきました。



今年度のまとめ

今年度はコロナ禍において感染拡大防止を鑑み学校での行事や学習体験も制限され中止となる事業が多かったです。その中でも感染対策を行いながら中3学習会やゲストティーチャーを招いての学びは実施することができました。保護者・地域の方々に学校にきていただく機会が少なく、ともに活動する場面が設定できなかったのは残念でしたが、支援事業を通じて将来に向けての学びをはぐくんでいくことができました。

来年度に向けて

コロナ禍において来年度もできる事業を精選し感染対策を講じながら地域コーディネーターをはじめ地域の方々との連携をより深め、生徒たちが将来の進路選択に向けての学びをはぐくんでいけるよう継続的な支援をしていきたいと思ひます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、**多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

自分たちの育った校区に誇りを持ち、その素晴らしさを校区内外に発信し、より地域のきずなを深め合えるようにする

今年度の取組紹介

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会のほとんどの事業が中止になり、実施することができませんでした。その中で、実施できたものから1つ紹介します。

・菜の花プロジェクト事業を通して

本校では、世界遺産学習・環境教育・地域交流の一環で、主に1・2年生の生活科で地域のボランティアの方々や保護者と一緒に取り組みました。

本事業の目的は、三つあります。一つ目は、児童が自身で菜の花の種まきから行い、育て、刈取り、種を採って、その種から搾取した油を東大寺に献納し灯明に使ってもらうことで、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みや心との重なりを感じさせることです。二つ目は、菜種の油が食用やバイオ燃料（地球環境にやさしい）として使用し、油の搾りかすや菜の花は、畑の肥料となる循環型社会についても学ばせることです。三つ目は、大人（地域の方、保護者）と児童の世代間の交流や対話を促し、異なる世代との交流を通して、疑問を解決し、他者の思いを受け止めたりしながら、活動を通して「受け継ぐ」ということを体験的に理解させることです。

主な活動の流れは、5月菜の花刈取り、6月脱穀と搾油、9月東大寺に献納、10月種まき、11月移植です。
5月は休校中だったので教職員で刈取りは行いました。



今年度のまとめ

本校区は、世界遺産に囲まれた素晴らしい環境の中にあり、様々な行事・伝統等、地域が守り続けてきた事柄が多い校区です。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業ができるかどうか心配ではありました。しかし、何とか、子どもたちの為に、「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出する事業が実施でき、生まれ育った地域に誇りを持ち、地域の方々とのつながりが深まったように思います。地域の方々との「であい」の演出を今後も大切に、この活動を進めていきたいです。

来年度に向けて

地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもを育てる取組を、コロナ禍に対応した形に変えながら、進めていきたいです。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

佐保に生きる（地域と共に）

【今年度の取組紹介】

自然環境学習～ビオトープを通して～

10年目を迎えるビオトープでの自然環境学習では、引き続きNPO法人や専門家の指導を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題を見つけ、自らの問題として捉えながら、一人一人が自分にできることを考え、実践していくことを学んでいます。今年度は、昨年度までに整備したビオトープに循環する小川に初めて水を流し、活動を広げました。また、中庭の



一部にあるバタフライガーデンに柑橘系の苗木を植え、水やりや肥料やりなどの活動をとおしてゲストティーチャーから自然環境についての学びを深めました。



地域連携活動～マーチングバンドの演奏～

地域や保護者の協力を得ながら、講師や教員の指導の下、イベントや学校行事・PTA行事の場で日頃の練習の成果を披露し、地域とのつながりや地域の活性化にも貢献しています。本校のマーチングバンドの活動は、校区にとっての伝統であり、守り受け継ぐ心が子ども達にも根付いています。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、発表の場はもとより練習時間の確保もままありませんでした。けれども、練習場所を分散したりマスクを着用して練習できるパーカッションを多く取り入れたりしながら、伝統を守るべく練習を続けました。

【今年度のまとめ】

自然環境学習では、ビオトープに循環させる小川に水を流したりバタフライガーデンに植樹をしたりすることを通して、学びを深めることができました。地域連携活動（マーチングバンド）は、地域の方と触れ合う発表の場がありませんでしたが、臥薪嘗胆の思いで練習を続け、関係の皆様のご協力のおかげで、金管バンドフェスティバルに参加することができ、達成感を味わいました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今年度実施できなかった活動も実施できるような知恵を出し合い、活動を充実させていきます。

めざす子ども像

**生まれ育った地域に誇りを持ち、
多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域とのふれあい、人・もの・こと との豊かな体験活動を通して、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる

【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な事業の中止を余儀なくされました。毎年、地域の方々、保護者と学校職員との交流の場であった「菜の花まつり」は断念しましたが、本校の特色の一つである「菜の花プロジェクト」は、感染防止対策をしながら、ボランティアの方々の協力のもと取組を行うことができました。

本校では、①生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、②図書室や学年園を中心とした学習環境整備を進めています。新興住宅地が多くを占める本校区において、これらの学習を通して児童に地域への理解を深め、愛着や誇りを持たせることを主眼としています。

「菜の花プロジェクト」は、世界遺産学習、環境教育へと体系的につなぎ、魅力ある総合的な学習の時間を構築し、特色ある学校づくりをめざしています。今年も、とれた菜種油をボランティアの方々とともに、5年生が東大寺と春日大社に灯明油として届けました。子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただくことができました。

5年生



油絞りのため脱穀作業

5年生からバトンを受け継いだ4年生



菜の花の間引き作業



菜種油の奉納

【今年度のまとめ】

今年度は地域交流の機会をもつことが難しく、活動を中止した事業もありましたが、「菜の花プロジェクト」を中心に、安全見守り活動、各活動を深化・発展させてきました。2学期から「お話し たつきゅうびん」さんが朝の読書の時間（毎月2回）に、子どもたちの心に響く素敵なお話を届けてくれました。「いのち」や「きずな」をテーマにした話やちょっと笑えるユニークな話を聞かせてくれます。コロナ禍の中、心の潤うひと時になっています。

また、学校図書館の大規模環境整備を行ってもらいました。市立図書館の司書さん延べ40人の方々と地域ボランティアの方々と「学習センター」「読書センター」として機能できる図書館にいただきました。

【来年度に向けて】

今年度同様、感染対策を講じ、工夫しながら活動を行っていきます。地域との絆、ふれあいを大切に、地域の方々から教えて頂いたことを学習活動に生かし、深い学びへとつなげていきます。多くの方に協力いただき環境整備をして頂いた学校図書館を大いに活用し、読書推進活動を充実させていきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りをもち、多様な進路**選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域の自然環境や様々な人との関わりをいかした体験を構築し、豊かな心とたくましい体を培い、佐保幼稚園で学んだことを誇れる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

○ マリーゴールドでの染色（環境整備事業）

春、職員やボランティアで時期を逃さず花や夏野菜の種や苗を植え、子ども達が臨時休園後すぐに活動できるようにしました。6月からマリーゴールドの世話をし、2学期にたくさんの花を咲かせました。子ども達は、花で飾りや色水をつくったり、オアシスに生けたりといろいろな遊びに利用しました。特に5歳児は、マリーゴールドの花で染色を経験しました。収穫した花を煮詰めて染め液を作り、布を縛って漬ける等、初めての事ばかりでした。綺麗な黄色に布が染まり、糸をほどくと染まらなかった丸い模様が浮かび上がると、子ども達は、目を見張りました。出来上がった喜びを味わうとともに、自然の力や科学的な不思議さも感じることができました。



○ 英語で遊ぼう（異文化ふれあい事業）

昨年度から始めた「英語で遊ぼう」では、ゲストティーチャーに来ていただき、音楽や絵本、ゲームやダンスを取り入れながら英語に親しんでいます。体を動かしたり、歌ったりすることで英語がより身近に感じて楽しむことができました。終わってからも、友達同士と英語で言葉を交わしたり、教わった歌や言葉を口ずさんだりする姿も見られました。英語を通して異文化に触れることで、いろいろなことに興味や関心が広がっていきました。

**【今年度のまとめ】**

- ・今年度は、感染症拡大予防対策を講じての取組となりました。特に子ども達に大切な人との関わり・ふれ合いができず、職員と地域の方が活動の方法を探り検討したり、活動の意義を再確認し合ったりしながら進めてきました。その中で子ども達は、自ら感染症予防対策をしながら活動し、地域の方への親しみや感謝の気持ちをもつとともに、自己肯定感が高まりました。
- ・大佛鐵道公園や佐保川、鴻の池運動公園、植村牧場など、地域の自然環境や施設への園外保育を取り入れたことで、「佐保に生きる」の第一歩「佐保を知る」ことができ、地域に興味や関心を持つきっかけができました。また、子どもの姿や話から保護者も地域に関心を持つことにもつながることができました。

【来年度に向けて】

- ・今年度の見直しをいかして、地域の方とのつながりを持ち、感じたことや学んだことを表現し、次への意欲や活動に考えて行動できる子ども達をめざしていききたいと思います。
- ・地域を知ること続けながら、今年度の活動で興味や関心を持ったことを更に深められる内容を検討して取り組み、保護者への啓発に努めていききたいと思います。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、**多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域や小学校との連携を大切にし、様々な人のふれあいや体験活動を通して豊かな心と体を育む。

【今年度の取組紹介】

○畑づくり事業では、地域の方に畑の先生として来ていただき、サツマイモの苗の植え方を教えてもらいました。夏には水やりや草引きなどの世話をし、秋には収穫することができました。畑の土や苗の生長、野菜に触れることで収穫の喜びと食への感謝など豊かな心の育ちと共に、水やり・草引き・虫探しなど世話や発見をする喜びは貴重な体験となりました。



○体力づくり事業では、子どもたちの体力向上、体幹を意識した運動能力の向上を目的に体操教室の先生に来ていただきました。運動器具による指導やうまくなるコツを一人一人丁寧にアドバイスしてもらうことで、様々な運動遊びに積極的に取り組み、体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができました。



○おはなしの会事業では「おはなしの会」の方々に来ていただき絵本の読み聞かせや素話、手遊び、パネルシアターなど多彩なバリエーションでお話を聞かせていただきました。昔話や季節の話などを子ども達は毎回楽しみにしていて、想像力を豊かにし、集中して話を聞く力に繋がっています。



【今年度のまとめ】

熱心で温かい地域の方々との連携を大切にしながら、様々な生活体験を広げることができました。畑づくり事業では、地域の方からの丁寧な指導を通して生長や収穫の喜びなど様々なことを教えていただいたことは、学び多い体験となりました。また、体力づくりの活動では、年齢に応じた運動遊びに繰り返し取り組む中で、やればできる喜びが自信となり、次の活動に向かう意欲へと繋がっています。

【来年度に向けて】

これまでの事業を継続し、様々な体験を通して豊かな心と夢を育むために、来年度はさらに園・家庭・地域の連携を深めながら、内容の充実を図り、子どもの体力向上と笑顔あふれるこども園をめざしていききたいと思います。地域の方々の力をお借りしながら、地域に開かれたこども園としての役割を果たしていききたいと思います。